



公益財団法人SAJ
SAJ Farm 通信
2010年 vol.6

～稲刈り～

公益財団法人
School Aid Japan
〒144-0043
東京都大田区羽田 1-1-3
TEL: 03-5737-2773
FAX: 03-5737-2793
<http://www.schoolaidjapan.or.jp>
sajinfo@schoolaidjapan.or.jp

SAJFarm では、「夢追う子どもたちの家」の子どもたちが一生懸命植えてくれた稲を収穫するに至りましたが、あまり良い成果として残すことができませんでした。皆様には今回の稲刈りのことをお知らせ致します。

稲刈りは、12月5日に行いました。メンバーは、SAJFarm 農場長の飯島、同じく SAJFarm 日本人スタッフの五月女、カンボジア人スタッフのチャンダー、管理人のお母さん、さらに、園から年長のソベアックとチャットラー、園長の大橋が駆けつけ、その他にもチャンダーの奥さん、管理人のお母さんの子どもたちと総勢 10 人ほどとなりました。そして、なんと今回はビデオレターにしたいと日本からワタミ専属のカメラマンが来て下さいました。

当初 6 人くらいで想定していたことだったので、10 人ともなると仕事もあっという間に進みます。女性と園からの子どもたちは刈り取る係り、男性は刈り取ってもらった稲を束にして縛り車まで運ぶ係りといつの間にか役割分担も決まっていました。

その後は脱穀です。日本ならば脱穀機であつという間の作業なのですが、カンボジアでは稲の束をたたきつけて脱穀します。時間のかかる作業ですが、そんなことは 10 人もいれば造作もないことで、作業途中では歌まで飛び出しました。

稲刈りといっても基本的にはひと昔の日本と変わりません。鎌を持って稲を刈り、その稲を束にしていくことだけです。驚いたのは、粃（もみ）を乾燥させるタイミングが日本と違うことです。カンボジアの場合は、脱穀してからすぐに、ゴザの上でもみ粃を乾燥させます。きっと気温と湿度の差からなのでしょう。

この稲刈りの前に、準備として少しだけ収穫をしていたのですが、収穫した粃を小型の精米機を持つ農家さんのところに持ち込み精米してもらいました。精米機を持つ農家さんは SAJFarm で収穫した粃を見て「おお、これは良いお米だねえ。」と言ってくれました。ちょうど同じときに近隣の農家さんのお米も精米したのですが、それを見て納得しました。なぜならば、お米の色がぜんぜん違うのです。私たちのお米が真っ白なのに対し、近隣の農家さんのお米は少し茶色がかったのです。

これには理由があり、私たちはカンボジアで品種改良された種粃を買い付けるために、プノンペン近郊のお米の試験場まで行き、品種を選んでいくからなのです。少々高い種粃ですが、品質がよければきっと高く売ることができるでしょうし、園の子どもたちにも「美味しい！」と喜んでもらえるはずですよ。



脱穀後、ゴミを取り除いている様子。日本には「とみ」がありますが、ここでは風の利用するのです。



小型の精米機を持つ農家さんのところで精米をしました。

畑の方は先日、タイのサラブリ農場の指導者であるカニット先生が来場され、実際に農場の中を歩いて指導して頂きました。その後もカニット先生の農場のデザインをもとに測量をしたり、土木業者さんと話し合いをし、見積りをもらったりしています。この作業が終われば本格的に区画整備が入り今よりももっと農場らしくなります。

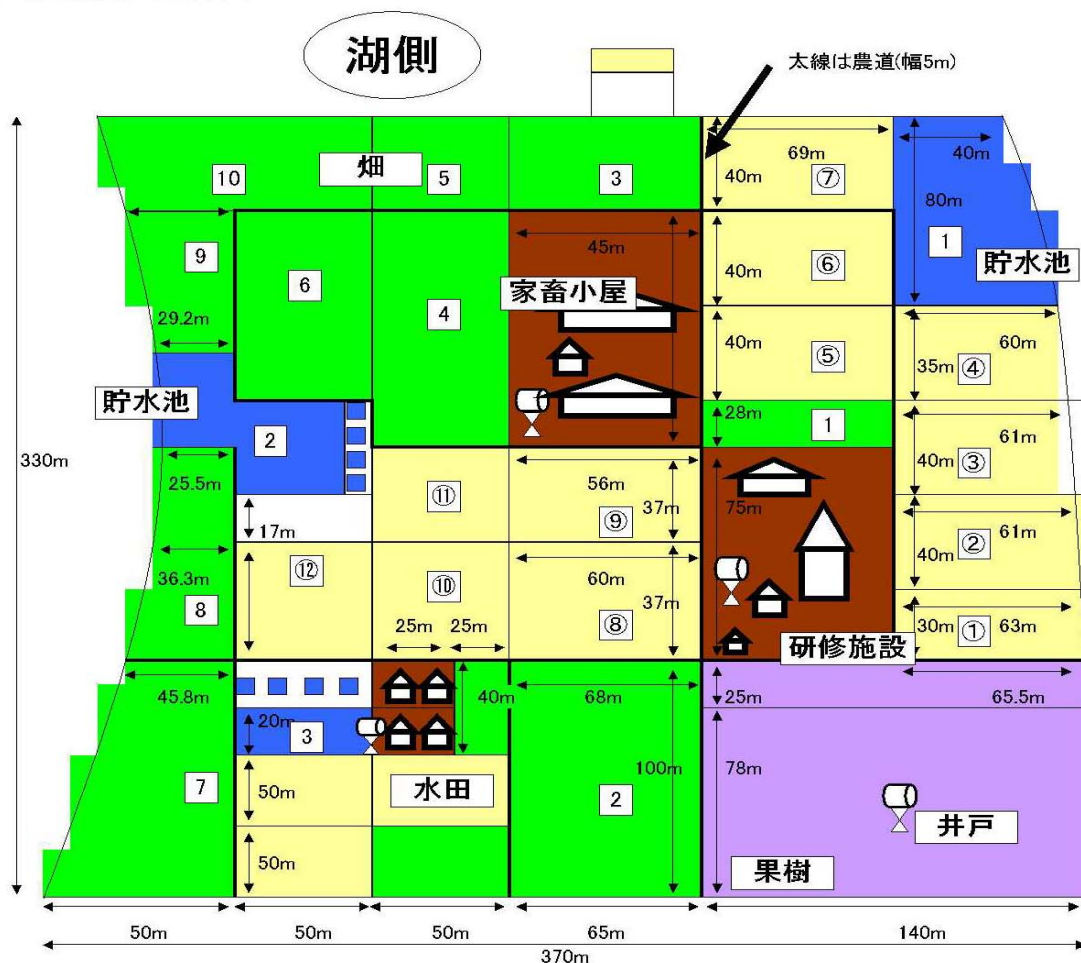


今最も力を入れていることは、水のもらない水田づくりと、米や野菜の試験栽培やナマズの試験飼育です。そして同時に、来年、再来年の計画を立てることに力を入れています。

「水田にはたわわに稲穂が実り、畑には種々の野菜で緑いっぱいの農場」になることを夢見ています。

少々わかりづらいのですが、左側が私たちのお米。右は近隣で作られたお米です。私たちのお米は真っ白です。

循環型農場 全体図



道路側

第一|
喜びを感じます。(取島)

とことに